

山王マンションのリノベ物件は全32室。いずれも間取りやデザイン、そして暮らし方の提案も違う、いわば「オンリーワンルーム」。リノベによって生まれ変わった個性豊かな部屋たちは、まるでジャンルの違う物語の舞台のようだ。住む人によってさらに変化しながら、次の主人公の訪れを待っている。

山王マンション「リノベーション ミュージアム」
この部屋で、あなたは主人公になる

Freedom 〜もっと自由に〜



2012年の「続・山王Rプロジェクト」によって誕生した一室で、デザインを手がけたのはステンドグラス作家の中村さん。そのため、室内には効果的にステンドグラスが取り込まれている。さらに部屋の各所に凹凸をつけ、光を透過させたり、反射させたりすることでやさしい雰囲気を出している。光を巧みに操るアーティストならではのリノベ物件だ。

2012年 デザイン/中村綾子

EXPANSION



壁、床、天井、すべてが白で埋め尽くされた空間は、横長の大きな窓から見える緑や青い空といった季節の色を際立たせてくれる。洗練されたシンプルな美しさを持つだけでなく、実用性にもすぐれている。16畳という解放感のあるリビングの窓際には備え付けのロングデスク。キッチンスペースとリビングを仕切る壁のような佇まいの収納家具は可動式で機能的だ。

2007年 設計・デザイン/森岡陽介

CQ=seek you?



扉を開けると目に飛び込んで来るのはクリアブルーのカーテン。空間を緩やかに切り取るように円を描くのが面白い。2004年に公開されたSF映画「CQ」にインスパイアされてデザインされたという。白を基調として室内にクリアブルー、クリアグリーンなどが差し色となることで、室内に近未来的な波長が生まれるよう。壁一面にはクローゼットハンガーが設置されており収納力も抜群だ。

2004年 デザイン/nano Architects

modern



2DKだった間取りを贅沢にワンルームにリデザイン。白と黒のモノトーンのコントラストが洗練された空間を演出している。透過性のある可動式のスライドドアとキャビネットが設置されており、居住空間に変化が付けられるのもユニークだ。今から20年前に山王マンションで最初にリノベーションされた部屋で、福岡の賃貸リノベ物件のはじまりの地といえる一室だ。

2003年 デザイン/丹創社

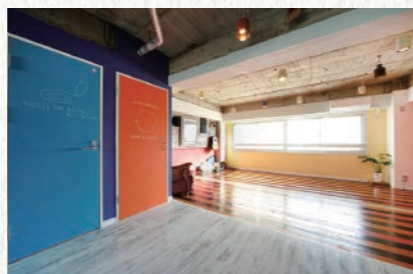
20世紀モダニストの部屋



障子、すりガラス、ステンドグラス…。日本の代表的なモダニズム建築に用いられる意匠や技法が、部屋中に散りばめられているのが特徴。間接照明の灯りに照らされる無垢材の床と茶系の土壁が落ち着いた空気を生み出す。壁で仕切られている2つの部屋はまったく同じ広さ。ひとつは趣味の部屋、もう一つは生活空間。2つの部屋でオンとオフ切り替えるのもいい。

2008年 デザイン/スペースRデザイン

soft-psychedelic (ソフトサイケデリック)



ポップな赤と青のドア、ストライプに染まった床が刺激的。デザインを手がけた瀬下さんによるとこの部屋のテーマは「山王マンションが竣工された1967年に発表されたビートルズの『イエローサブマリン』にインスパイアされた空間」なのだとか。部屋のあちこちに多くのカラーが使われているものの、絶妙なバランスで美しさを保っている、まるで手づくりのアート作品のような不思議な部屋。

2012年 デザイン/瀬下黄太

ROOM N0507 by AMP



「コンセプトを打ち出さない」というコンセプトでデザインされたリノベ物件。手がけたのは造形作家の寺田さんを中心に鍍金作家の藤瀬大喜さん、そしてデザイン担当の瀬下黄太さんがコラボしたアートユニット。ヨーロピアンなかにアジアンテイストが、ゴージャスのなかにキュートが潜んでいる。テイストの違うインテリアでもすぐに溶け込んでしまいそう。そんな奇妙な調和が心地よい。

2007年 デザイン/寺田太郎 (AMP)

時代蘇生



建設当時から時間が止まっていたかのような部屋。その時間を断ち切ることなく再度動かすために、スケルトンにせず、もとの部屋の名残を残したままリノベーションを進めたと建築家の信濃氏は語る。玄関から続く部屋の床には無垢のバイン材を使用。木材をはじめ、自然素材を積極的に用いてあたたかさを演出している。

2007年 設計/信濃設計事務所

